

71. 無形文化遺産における木材の伝統的な利用技術および民俗知に関する調査研究

独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所 無形文化遺産部 主任研究員

今石 みぎわ

概要

本研究は、日本の無形文化遺産（芸能や伝統的な技術）を支える樹木の採取・加工の技術に着目し、失われつつあるこれらの技・民俗知の意義を再評価し、関係者間のネットワークを構築することで、文化の継承に繋げることを目的とするものである。

2020年度より開始した本研究は、新型コロナウイルスの感染拡大により現地調査が実施できない状況が続いていたが、2023年の「アフターコロナ」以降、本格的な現地調査に着手、イタヤカエデ、キリ、ヤマザクラ、ヨシなど、無形文化遺産の継承に不可欠な素材の採取・加工技術に関する現地調査や資料調査、記録・撮影を実施してきた。さらに採取・加工に関わる民俗知の科学的意義を検証するため、フジ、イタヤカエデ、ヨシ等について、それぞれ関係機関と協力して科学実験等を実施し、なぜ地域ごとに特定の素材や加工方法が選ばれるのか、その科学的合理性について追究してきた。

こうした調査を通じて、どの素材にも共通する課題として、高度経済成長期以降の自然環境・社会環境の変化によって良材の確保が困難になっている現状が明確になり、またそれぞれの分野における具体的対策等についても情報が集積された。そこでこうした現状を周知して問題意識を共有するとともに、これまで明らかになった民俗知を広く知っていただくことを目的に、2024年8月に一般向けのシンポジウムを開催し、定員を上回る105名の参加を得た。

研究成果の公開についても積極的に進め、研究を通じて刊行した2冊の報告書や、制作した映像7件のうち許諾の得られた4件については、東京文化財研究所無形文化遺産部のウェブページ（<https://www.tobunken.go.jp/ich/>）にて公開している。

三菱財団の助成金により、従来光が当てられてこなかった無形文化遺産を下支えする木材の採取・加工技術のおかれた現状と課題を明らかにし、関係者間で問題意識を共有できたことは大きな成果であり、あらためて感謝を申し上げたい。

背景および目的

本研究は、日本の無形文化遺産（芸能や伝統的な技術）を支える、樹木（木材、樹皮、その他の副産物）の採取・加工の技術に着目し、失われつつあるこれらの技・民俗知の意義を再評価し、関係者間のネットワークを構築することで、文化の継承に繋げることを目的とするものである。

脚光を浴びる芸能や工芸の背景には、それを下支えする無数の技や素材があるが、それらは存在すら知られないままに急速に失われつつある。例えば国の重要無形文化財に指定された「雅楽」の実演のために必須の「楽器」の製作に必要な素材の調達が極めて困難になっている状況は、ほとんど認識されていない。これらの技や素材の消滅は、それらを基盤とする無形文化遺産の崩壊に直結するものであり、現状調査と情報共有が喫緊に実施すべき社会的課題となっていた。

そこで本研究では、日本の無形文化遺産に関わる素材として最も汎用性のある「樹木」を中心的対象とし、その利用技術に対して、人文系（民俗学、芸術学、考古学）の研究者が詳細な調査研究および映像等による記録を行い、自然科学系（植物生態学・材質分析）の研究者が科学分析を通して伝承されてきた民俗知の合理性を検証する。さらにこれらの調査過程を通して、作り手・使い手や、保護に携わる行政関係者とのネットワークを構築することで、より幅広い関係者の具体的注意を喚起し、日本の無形文化遺産を次世代へ継承する機運を醸成することを目指すものである。

成果

4年間の研究期間を通して、イタヤカエデ、キリ、ヤマザクラ（樹皮）、ヨシ、エゴノキ、シナノキ、フジ、ヤナギ類、シナノキなど、無形文化遺産の維持に不可欠な様々な素材について現地調査や情報収集を行い、そこに蓄積されてきた民俗知（知恵やわざ）を記録するとともに、素材調達等に関する課題の実態調査を実施した。また、こうした民俗知が従来言語化されず、科学的にも評価されてこなかった現状を踏まえ、その合理性を科学分析によって明らかにし、再評価することを試みてきた。

最終年度である2024年度（9月末で事業終了）には、キリ（京都／文化財保存箱）、エゴノキ（岐阜／和傘ロクロ）、ヨシ（大阪／筆簾蘆舌）、サルナシ・バッコヤナギ（岩手／箕）などの現地調査を実施した。このうちエゴノキについては、採取済みのエゴノキに対する虫害が深刻であることから、保存科学の専門家に同行いただき、実態調査と助言も行った。また、古典芸能に用いられる筆簾（ひちりき）の蘆舌（リード）となるヨシについて、適材の産地とされる上牧・鶴殿（大阪府）以外の3か所の産地のヨシの特性分析、および蘆舌の製作・試演による比較を実施、産地ごとの特性を明らかにした。

こうした一連の調査の結果、どの素材にも共通する課題として、良材の確保がきわめて困難になっていること、その背景には高度経済成長期以降の様々な自然環境・社会環境の変化があることが明確になった。その変化とは、生業やライフスタイルの変化による二次林（里山的環境）の減少、鹿を中心とする獣害の著しい増加、温暖化などの環境変化に起因すると考えられる発育の不良や虫害の増加、また、原材料採取者の減少や需要減による分業体制の崩壊などである。原材料不足の課題が、技の担い手や研究者など個人レベルで解決できるものではなく、社会全体で考えていくべき課題であることが改めて浮き彫りになったとも言える。

こうした現状を踏まえ、最終年である2024年8月には一般向けシンポジウム「森と支える知恵とわざ―無形文化遺産の未来のために」を開催した。会場の都合で定員80名のところ、多数の申し込みいただいたことから早々に申込みを締め切らなければならず、社会的にも同テーマに強い関心があることが窺われた。シンポジウムでは、優れた民俗知をまず体感してもらい、さらには原材料が入手困難になっている実情を知ってもらうため、5名のわざの担い手による実演やパネル展示、ブースでの映像放映、協同研究者による講演や研究成果の報告を行った。シンポジウムの内容は報告書として刊行し、2022年度に実施・刊行した公開講座の報告書『樹木利用の民俗―桜をつかう、桜を奏でる』や、公開許諾のとれた映像などとともに、東京文化財研究所無形文化遺産部のウェブページにて公開・発信している。こうした取り組みにより、関係者のみならず、多くの一般の方にも原材料をめぐる現状と課題を認識していただくことができたものと考えている。

今後の展望および課題

原材料確保の現状を改善するためには、わざの担い手だけでなく、行政や研究者、売り手、林業関係者、消費者など多くの関係者が課題意識を共有し、かつ、一般社会に向けても不断に情報発信を続けることが求められる。今後は本助成事業で作成した映像や報告書を活用しつつ、引き続き社会に対して森林資源と無形文化遺産の関係について注意喚起していく。

また、事業を通じて構築してきたネットワークを生かし、文化財行政や林業行政に対する働きかけなども含め、安定的・持続的な原材料確保に向けた仕組みづくり、制度設計にも踏み込んでいきたいと考えている。

（完）

刊行物・口頭発表等

- 1) (刊行物) 東京文化財研究所無形文化遺産部『シンポジウム森と支える知恵とわざ—無形文化遺産の未来のために』2024年9月
- 2) (発表) 今石みぎわ「森を使う知恵とわざ—籠を例に」シンポジウム森と支える知恵とわざ—無形文化遺産の未来のために 東京文化財研究所 2024年8月9日
- 3) (発表) 今石みぎわ「日本の伝統的な籠について」ノルウェーの籠と出会う レクチャー・実演 東京文化財研究所 2024年9月27日
- 4) (講義) 今石みぎわ「文化財を支える自然—人と自然の関わりを焦点に」令和6年度文化財保存修復を目指す人のための実践コース 文化財保存支援機構 2024年10月1日～11月15日配信
- 5) (発表) 倉島玲央「森と職人を繋ぐ—キリを例に」シンポジウム森と支える知恵とわざ—無形文化遺産の未来のために 東京文化財研究所 2024年8月9日
- 6) (講演) 蒔田明史「文化の基盤としての自然」シンポジウム森と支える知恵とわざ—無形文化遺産の未来のために 東京文化財研究所 2024年8月9日
- 7) (講義) 蒔田明史「文化の基盤としての自然～天然記念物と世界遺産を素材として」令和6年度文化財保存修復を目指す人のための実践コース 文化財保存支援機構 2024年12月1日～2025年1月15日配信
- 8) (発表) 前原恵美「素材を育む自然・社会環境—ヨシを例に」シンポジウム森と支える知恵とわざ—無形文化遺産の未来のために 東京文化財研究所 2024年8月9日
- 9) (講義) 前原恵美「伝統楽器の製作・修理技術と道具・原材料について」令和6年度文化財保存修復を目指す人のための実践コース 文化財保存支援機構 2024年10月1日～11月15日まで配信
- 10) (映像制作)「オオツヅラフジの採取・加工技術—岐阜県揖斐川町」約11分 東京文化財研究所 2024年
- 11) (映像制作)「大野のシダ籠—広島県廿日市市」約11分 東京文化財研究所 2024年
- 12) (映像制作)「奥丹生谷の木かご—小原かご 滋賀県長浜市余呉町(短編)」約18分 東京文化財研究所 2024年
- 13) (映像制作)「筆簾の蘆舌製作の記録(長編)」約33分 東京文化財研究所 2024年
- 14) (映像制作)「筆簾の蘆舌製作の記録(短編)」約15分 東京文化財研究所 2024年